

21世紀 COE プログラム長崎大学・ 広島大学合同国際シンポジウム開催

11月25日～27日にかけて長崎ブリックホールで行われた、第47回日本放射線影響学会の最終日に、21世紀 COE プログラム長崎大学・広島大学合同国際シンポジウムが開催されました。両大学が合同でシンポジウムを行うという学会初の試みであり、広島大学 COE（神谷研二拠点リーダー）が「ゲノム損傷に対する細胞応答と発がん」を、長崎大学 COE（朝長万左男拠点リーダー）が「放射線誘発細胞応答と分子がん疫学」をテーマに講演及び討論が行われました。

午後からの長崎大学 COE シンポジウムでは、大

学院医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設の朝長万左男教授及び同研究科放射線医療科学専攻放射線生命科学講座の鈴木啓司助教授の他に、国外よりトム・ヘイ博士（コロンビア大学）、ケヴィン・プライス博士（グレイ癌研究所）、ウィリアム・モーガン博士（メリーランド大学）、ゲリー・トーマス博士（南西ウェールズ癌研究所）及びクリストフ・ライナーズ博士（ビュルツブルグ大学）が招聘され、発表を行いました。

このシンポジウムを通じて国内外の各拠点との共同研究の成果と現状が報告され、また、今後の活動方針について十分な討論が行われ、継続した長崎と広島での COE 学術交流の必要性とその拠点化推進への期待が表明されました。



シンポジウム風景

（医歯薬学総合研究科学術協力課）